

- 1 そろ多くの人の目に触れる冊子ではないが、▼
小社広告局が発行する 「オッホ」 の今月号で、▼
映画監督の 大林宣彦さんがクイズを出している。
- 2 「一時間半の映画で スクリーンに絵が映っている時間は何分か」
- 3 正解は五十分だそうだ。
- 4 映写機は 一秒間に二十四回まばたきするが、▼
シャッターが閉じて フィルムが入れ替わるのに九分の四秒かかる。
- 5 一時間半のうち四十分間、観客は闇を見ているのだという。
- 6 この闇を大林さんは、文章に例えて “行間” と表現し、▼
観客に行間を読ませるのが演出だと述べている。
- 7 九分の五の映像が 物事の「記録」だとすれば、▼
九分の四の闇は その記録を心の内に投影する「記憶」の時間である、とも。
- 8 人も情報も高速で動く今、記録と記憶のバランスはどうだろう。
- 9 目的地での見聞、ネットや携帯電話の情報が大量に記録される一方、▼
それをゆっくり味わう 記憶の時間が失われつつあるようにも感じられる。
- 10 ファストフード全盛の中、食事に時間をかける ▼
「スローフード」が関心を集めているのは、その反動でもあるのだろう。
- 11 時間をかけて走る寝台特急が人気の理由も 同じに違いない。
- 12 夏休みは 「ゆっくり」を楽しむいい機会だが、今年は台風に邪魔された。
- 13 時速二十キロほど、自転車並の縦断が被害を大きくした。
- 14 こちらのユックリズムはありがたくない。